

# “わかりやすさ”の必要性とその広がり

一般社団法人スローコミュニケーションの取り組みから

立正大学社会福祉学部／一般社団法人スローコミュニケーション  
打浪文子

## 知的障害のある人たちのニーズとは

「自分たちは かんがえても うまくひょうげん することが  
むずかしい。

どこが 人と ちがうのか あいてに つたえることが むずかしい。  
おや まわりの人の つごうで ふりまわされている。

自分たちが どうやって わかりやすい じょうほうを もらい  
けいけんをし、たっせいかんを えていくかです。

そのために じょうほうの バリアを なくして ほしい。  
それが ごうりてき はいりよ です」(土本2011:32-33)

# 一般社団法人スローコミュニケーション

2016年創設、2018年活動開始。

知的障害のある人たち  
ことばに難しさを抱える人たち向けの  
「わかりやすい情報」の普及と推進を  
目指している非営利団体です。

わかりやすい情報の発信のほか  
文書・書類・資料などのリライト、  
企業や官公庁へのアドバイス、  
障害理解の啓発事業を行っています。



SLOW わかりやすいニュース  
2020年8月2日 解説 / かいせつ  
【特集 新型コロナウイルス⑩】耳の聞こえない人の困りごと

新型コロナウイルスが流行し、多くの人がマスクをつけているので、耳の聞こえない人たちが困っています。

耳の聞こえない人たちは「口話」や「手話」などでコミュニケーションをしています。

「口話」では、しゃべっている人の口の動きを見て、口の形から言葉を読みとります。また、その口の形をまねることで言葉を伝えます。

「手話」では、手や顔の動きなどで言葉を伝えます。

透明なフェイスガードをつけた手話通訳者 (写真提供：毎日新聞社)

00:00 -00:00 (音声：加藤 愛優美さん)

## スローコミュニケーションのウェブサイトより抜粋

### 「わかりやすさ」をみんなに

「わかりやすさ」は、自分と相手をつなぐ気持ちです。  
相手とわかり合いたいと思うとき、「わかりやすさ」が生まれます。

どんな障害があっても、どんなに高齢になっても、  
知ってほしいことがあります。  
彼らからも情報を発信してもらわなくてはなりません。  
そのためには「わかりやすさ」が必要です。

一般社団法人スローコミュニケーションは、  
知的障害のある人たちへのわかりやすい情報の  
研究や実践に努めてきた人々が設立しました。

### 「わかりやすい情報」で社会に貢献します

私たちの生活に、情報は欠かせません。  
しかし、身の回りの情報には、「わかりにくさ」があふれています。

私たちは、こうした情報を「わかりやすく」することで、  
知的障害のある人をはじめとして  
情報理解に難しさを抱える人たちに  
情報を届けるサポートをします。

私たちは、知的障害のある人への「合理的配慮」としての、  
わかりやすい情報提供やコミュニケーション支援に貢献します。

## “わたしたち”は、「配慮」されている

障害のない人たちが

普段の生活で「困る」ことが少ないのはなぜ？

⇒物理的・意識的・文化的・制度的に

「社会」が 多数派に「配慮して」作られているから

障害の「社会モデル」・・・障害は社会の在り方が作り出したもの

⇒情報提供やことば・コミュニケーションについても

「社会モデル」で考える必要性

## 知的障害のある人の情報入手の困難

- ・情報入手が周囲との関係性に左右される部分がある
- ・情報認知に関する個人差が大きい  
例：テレビ等のテロップを早すぎると感じることもある、等
- ・情報通信機器（ICT）を使うこと自体への難しさがある
- ・自分でアクセスした先の情報の大半がわかりやすすくない
- ・わかりやすい情報がどこにあるのかがわかりづらい

# 障害のある人の 情報伝達・コミュニケーションにおける問題

わかりやすい情報提供やコミュニケーション支援は  
社会やコミュニティにおいて、  
障害のある人に場への「参加」を保障する大切な手立て

- 情報自体が有するバリアを小さくする
- コミュニケーションのかたちそのものを変えて  
通常のやり方ではうまくいかない  
知的・発達障害のある人たちに適したかたちにする

## 例：わかりやすいニュース

- 毎週1回「わかりやすいニュース」を更新  
※防災・選挙等の情報は随時
- 「国内」「海外」「障害」「解説」の  
4 カテゴリー 話題は多岐に渡る
- わかりやすい文章（総ルビ）・写真・  
音声（肉声）で構成
- スマートフォン用のアプリでも配信



## わかりやすいニュースの利用例

- ・特別支援学校の高等部などで教材として利用
- ・知的障害者の通う施設で掲示 など

障害のある本人が個人PCやタブレット、スマホで利用するほか、  
家族や教育者・支援者と一緒に利用するケースも

- 障害が軽い方はそのまま利用できる
- 障害が重い方は“一緒に読む” など

※会報として、わかりやすいニュースの一部は紙面でも展開

## 知的障害のある人の日々の生活を守るために

知的障害のある人は、自分の「権利」について学ぶ機会が少ない

- ・認知特性・環境要因・家族や支援者との関係性等の要因による  
情報入手の困難や偏り
- ・学校を出た後の学びの機会の少なさ
- ・自らにとって必要な情報が何か・どう判断したらいいか

★意思決定支援★ 意思“形成”のためのわかりやすい情報の不足

例：障害者虐待防止法…身を守るための情報、概念の理解の重要性  
選挙 …権利行使のための情報、背景を含めて難解

## 例：成年後見制度 「わかりやすい版」

- 自治体（豊田市）からの依頼で「わかりやすい版」を作成
- 「本人の視点」に立って4ページで構成（主語「あなたは」）
- わかりやすい文章（総ルビ）とイラスト・写真等で作成
- 担当者が「説明」することを想定



## 例：成年後見制度 「わかりやすい版」

- 1ページ：要旨とイラスト、伝えたいこと
- 2ページ：どんな時に役に立つか
- 3ページ：知っておきたいこと
- 4ページ：実際の利用を想定した流れ

知的障害のある人が  
説明を受け、知ってから  
制度を利用するかどうかを  
意思決定できるような情報を  
わかりやすく提供する



## 知的障害のある人だけではないニーズ

- ・認知症・失語症・高次脳機能障害の人たち
- ・聞こえない人・聞こえにくい人たち
- ・ディスレクシア（読み書き障害、読み書きの困難）のある人たち
- ・「やさしい日本語」を利用する人たち

→ 生活情報・公文書・防災などを含む

「みんな」が使う情報に共通するニーズがある

情報が「わかりやすい」かたちになっている必要性

## 知的障害者向けの文章と「やさしい日本語」 との共通性

【わかりやすい情報提供に関するガイドライン（厚生労働省）】

知的障害者向けの文章作成に関する指標

……やさしい日本語の文章作成のルールと類似

<研究で導出された共通性も>

・「ステージ」と「NEWS WEB EASY」は文章の形態素数や和語の率が近い（打浪ほか2017）

・「ステージ」※と「NEWS WEB EASY」には、情報圧縮の際に共通するパターンがある（詳細・周辺情報のカット／結論提示／関係者や専門家のコメントをカットする、等）（打浪・岩田2019）

## 「やさしい日本語」との工夫の違いも

第一言語に困難があることと、第二言語に困難があることの差  
難解な用語でも耳なじみがあることも  
日常的な語彙の使用で理解がより促進されることも

<認知特性に応じた工夫> ……厚生労働省ガイドラインより

- ・「指示語」を使わない
- ・時系列に沿った情報の整理
- ・必要に応じて説明を「加える」
- ・図やイラストを大きく用いる



## まとめ

やさしい日本語／わかりやすい情報提供を超えて  
「言語的な困難を有する人」すべてを対象とした  
情報保障の具体的な方法を提示することが必要



日本語に難しさがある人や、言語の認知に困難のある人にとって  
工夫されたわかりやすい文章・情報提供は  
そうでない人にとってもわかりやすい  
→その人に合わせたことばのかたちを選べる社会を

ご清聴・ご参加ありがとうございました！

**SLOW**  
スロー  
コミュニケーション

一般社団法人スローコミュニケーションの連絡先

ホームページ

[www.slow-communication.jp](http://www.slow-communication.jp)

メール

[info@slow-communication.jp](mailto:info@slow-communication.jp)



賛助会員を  
募集しています！



Facebook・LINE・Twitter (@SlowCommu) もやっています

スローコミュニケーションの「わかりやすいニュース」には  
スマホのアプリもあります。ダウンロードしてみてください。  
<https://slow-communication.jp/info/2022/>



## 参考資料

- ・ 打浪文字・(2017) 「知的障害者向け『わかりやすい』情報提供と外国人向け『やさしい日本語』の相違 — 『ステージ』と『NEWSWEB EASY』の語彙に着目した比較分析から—」 『社会言語科学』20(1)、29-41
- ・ 打浪文字 (2018) 『知的障害のある人たちと「ことば」 — わかりやすさと情報保障・合理的配慮』生活書院
- ・ 打浪文字・岩田一成 (2019) 「やさしい日本語化と情報の加除 — NHKニュース、NHK『NEWS WEB EASY』、『ステージ』の比較」 庵功雄・岩田一成・柳田直美編著 『「やさしい日本語」と多文化共生』、239-256
- ・ 土本秋夫(2011) 「バリア (かべ) と思うこと」 『ノーマライゼーション』2011年12月号、pp.31-33.
- ・ 豊田市成年後見支援センター 「成年後見制度ってなに？ わかりやすい版」  
<https://toyota-koken.jp/wp-content/uploads/2022/11/%E6%88%90%E5%B9%B4%E5%BE%8C%E8%A6%8B%E5%88%B6%E5%BA%A6%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%AA%E3%81%AB%EF%BC%9F%E3%80%80%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8A%E3%82%84%E3%81%99%E3%81%84%E7%89%88.pdf>
- ・ 厚生労働省 「わかりやすい版 障害者総合支援法パンフレット」  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12200000Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu/0000181617.pdf>
- ・ 厚生労働省 「わかりやすい情報提供に関するガイドライン」  
[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/shougaiishahukushi/dl/171020-01.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaiishahukushi/dl/171020-01.pdf)
- ・ 文化庁 「在留支援のためのやさしい日本語ガイドラインほか」  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/92484001.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/92484001.html)